

平成 25 年度調査報告書
「経済連携協定外国人介護福祉士における国家試験合格後の問題」
そのⅡ：国家試験合格者の課題

目次

I 調査の概要

1. 調査の目的
2. 調査の対象
3. 調査の時期及び方法
4. 回答の状況
 - 回答総数
 - 回答率

II 調査の結果

1. EPA 候補者として来日した目的
2. 介護福祉士として幸せ（うれしい）と感ずること
3. 介護福祉士として困難（つらい）と感ずること
4. 今後もっともしたいこと
5. 将来の夢
6. 合格後の日本語勉強について（方法、時間）
7. 日本や日本人について
 - 1) 好きなこと、気に入っていること
 - 2) いやなこと、なおしてほしいこと
 - 3) 異文化の介護への影響
8. コメント

III 調査総評

平成 26 年 6 月 25 日
NPO 法人外国人看護師・介護福祉士教育支援組織
調査責任者 青野淳子
報告書作成者 青野淳子、樋口聰美

I 調査の概要

1. 調査の目的

経済連携協定（EPA）で来日した介護福祉士候補者のうち国家試験合格者（以下外国人介護福祉士という）について、国家試験合格者側から合格後の課題を検討する。

2. 調査の対象

調査の対象は第 24 回介護福祉士国家試験合格者 36 名（インドネシア人 35 名、フィリピン人 1 名）及び第 25 回介護福祉士国家試験合格者 128 名（インドネシア人 86 名、フィリピン人 42 名）である（合計 164 名）。調査対象者のうち、平成 25 年 10 月の電話調査により、帰国したまたは国内の他の施設に転職した者が合計 28 名いることが判明した。しかし、在籍情報を明らかにしなかった施設も 15 施設以上あり、正確な調査対象者数を把握することができなかった。その結果、合格者合計 164 名から 28 名を除く 136 名を本調査の対象者と仮定した。

3. 調査の時期および方法

平成 25 年 10 月～11 月

平成 25 年 10 月初旬に調査対象施設へ郵便にて調査票を送付し、施設をとおして在籍する外国人介護福祉士にアンケートへの回答を依頼した。施設側へのアンケート回答と合わせて返信用封筒にて回答（無記名）を受領した。

4. 回答の状況

回答者は、調査対象者 136 名（仮）のうち 21 名（15.4%）であった。回答者の合格年度と出身国を表 1 に示した。

表 1 回答者の合格年度と人数

国家試験合格年度	回答者数	インドネシア人	フィリピン人
2012 年 3 月（24 回）	1	1	0
2013 年 3 月（25 回）	20	8	12 名
合計	21 名	9	12 名

回答に使用された言語は日本語（1 名）、インドネシア語（8 名）、英語（12 名）であった。インドネシア語翻訳は矢部幸雄及び介護福祉士候補者 2 名、英語翻訳は祝田剛夫、樋口聰美、青野淳子が担当した。

本研究は当法人倫理委員会の承認を得ております（承認番号：承 2013002）。

II 調査の結果

原則として各人の回答を示したが、類似の回答についてはまとめて示し、その人数を文末（ ）内に示した。

1 EPA 候補者として来日した目的

(インドネシア人)

- ・知識を広げ仕事の経験を積むため、海外で仕事がしたかった、インドネシアにはない新しい仕事がしたかった（5名）
- ・インドネシアの家族の生活費を助けるため。
- ・介護福祉士の資格をとるため
- ・日本の文化や習慣を知りたかった。

(フィリピン人)

- ・日本に来たかったから、日本の伝統文化を学び、日本で働きたかった、日本語の勉強をしたかった（6名）。
- ・経験を積みたかった、キャリアを積みたかった（2名）
- ・海外で学べる絶好の機会だと思った（2名）。
- ・家族を養うため（2名）

2 介護福祉士として幸せ（嬉しい）と感じること

(インドネシア人)

- ・日本人と一緒に仕事ができることが非常に楽しい（2名）。
- ・良き仕事仲間、素晴らしいマネジメント、経営者や上司が皆良い、人が良い（2名）
- ・患者の介護がうまくでき、患者だけでなく家族の信頼も得ること。
- ・尊敬される仕事であり、自分の両親を介護するのと同じように心をこめて仕事をし、将来日本で得た知識と経験で自分の両親の世話ができる。
- ・一人の回教徒として神様に認めてもらえる。他人を手助けできるのは、たいしたことではないけれど自分の幸せ（2名）。
- ・ユニバーサル・デザイン、バリアフリーなどの新しい学問を学ぶこと。
- ・経験を積めること。

(フィリピン人)

- ・文化の違いや言葉の障害はあるが日本人と働けて余暇も共にすごせること、日本人スタッフと仕事ができること、日本で働く機会を得て楽しんでいる、日本の文化や生活が学べ、簡単ではないが、報われる気がする、違う文化やいろいろな人と触れ合えることが楽しい（3名）。
- ・同僚が親切で家族のようにしてくれる、同僚もほとんどが親切、同僚と通じ合えるとき（3名）。
- ・私が仕事に順応できるように会社がいろいろなことに配慮、応援してくれる、上司が必要なサポートをしてくれる、仕事を適切に教えてもらえる、同僚や上司が理解があるので助かる。でも時々意思疎通が図れないことがある。（3名）。

- ・職場は清潔で設備が整っている。
- ・利用者から感謝される、利用者から「ありがとう」と笑顔で言われる、名前を呼んでくれたり笑顔にふれることで報われる、利用者と家族のように接してる、向こうも孫のようにかわいがってくれる、利用者に毎日会うこと（6名）。
- ・高齢者にできる限りの質の高い介護をする時、お年寄りのケアができることに価値がある、自分にプロとしての力がついていること（3名）。

3. 介護福祉士として困難（つらい）と感じていること

（インドネシア人）

- ・介護士の人数が少ないので、仕事がきつい、体の負担が大きい、腰と膝がいつも痛い。
- ・当然ですが日本語で訓練すること、そして日本語での説明、も一つ、難しい日本語で総てはつきりさせること。
- ・基本的にはどんな仕事でも慣れない間はきびしい。でも理解して分ってくれば、どんなに難しい仕事でも好きになれば、なんでも容易になってくる。
- ・文化、言語、あらゆる面で違いがあるため、利用者の家族との会話で患者の状態をどこまで家族の立場にたって明らかにしてよいのか、まだまだ難しい。
- ・豚を使った食事がいっぱい。

（フィリピン人）

- ・日本語と文化の違い、言葉の壁がコミュニケーションを難しくしている、言葉の壁があり、十分に言いたいことが言えないし、仕事にも貢献できない、利用者の言っていることがわからない、こちらの言いたいことも言えない、仕事上コミュニケーションが大切だが言葉の問題が今も大きい、お年寄りや同僚と話す際相手の言うことが十分わからなかったり必要な説明ができなかったりする（6名）。
- ・日本語を書くこと。
- ・時々意見が合わない。自分とは違う背景を持つ日本人スタッフと仕事をすること。
- ・他のフィリピン人の友達も、下に見られているとか、こき使われているとか言っている、日本にいるフィリピン人が必ずしも平等に扱われていない、権利が尊重されていない人もいる、外国人介護士に対し、横暴な態度のスタッフがいること（3名）。

4 今後最もしたいことは何ですか。

（インドネシア人）

- ・利用者に良いサービスをしたい、今の仕事で総てのシフトにつけるような介護福祉士に早くなりたい（2名）。
- ・まづ第一に一生懸命仕事をします、日本にいる間の給与はインドネシアの家族のためと、貯金に、将来は子供を育てながら、同時にインドネシアで事業をしたい。
- ・仕事上、互いに信じ誤解の起きないよう常にコミュニケーションを取り同僚の人達と上手くやっていきたい。

- ・日本語の先生か日本の会社で長く仕事を続けたい。

(フィリピン人)

- ・フィリピンでは看護師なので日本でも看護師の勉強をして資格をとりたい、看護師として仕事をするか、もっと給料の高い仕事をしたい、まだ解らないが、日本での契約を打ち切って他の仕事に就くか結婚するか、看護師にもどりたい、看護師の資格をとって、一生懸命仕事をして、お金をため、将来にそなえたい、今と同じ病院で、看護師として働きたい（5名）。
- ・日本語のN1を取る、言葉をもっと話せるようになる必要がある（2名）。
- ・少し長い休みをとって国に帰り家族と過ごしたい、息子を幼稚園に入れる（2名）
- ・自分で会社を立ち上げたい、キャリアアップを図りたい（2名）
- ・早く結婚したい。
- ・今の仕事を続けたい。
- ・少し長い休みをとって、国に帰り家族と過ごしたい。

5 将来の目標（夢）

(インドネシア人)

- ・優秀な介護福祉士になり、どんな仕事も上手く出来るようになりたい。
- ・日本語の先生か日本の会社で長く仕事を続けたい。
- ・まだ理解できていない学問を沢山学び、インドネシアに帰ったら、秩序だった日本人達の仕事のやり方、時間を守ることなどを教えたい。
- ・たぶん介護士の仕事ではなく、他の分野で日本とインドネシアを結び付けるような仕事がしたい。
- ・夫とともに事業を始めたい。無職の近親者や他の人達のために。そして子育ても。

(フィリピン人)

- ・試験に合格したばかりなので当面は今の仕事に専念したいが機会があれば看護師に戻りたい、看護師のキャリアを追求したい、看護師として働きたい、看護師になって落ち着き場所を決めて子供を育てたい、日本で看護師になること（5名）。
- ・もっと知識を高めて今より仕事ができるようになりたい、介護をもっと上手くできるようになること（2名）。
- ・日本語がうまくなりたい、文がうまく組み立てられれば、もっとお年寄りに尽くしてあげられるのに（2名）。
- ・通訳か、日本語の教師になりたい。
- ・社会福祉士のような資格にもチャレンジしたい。
- ・今の契約が終了してから、考えようと思う。

6 合格後の日本語の勉強について（方法と時間）

(インドネシア人)

- ・介護福祉士試験合格後は仕事が忙しく勉強の時間がありません、しかし私は仕事が勉強だと思っています、仕事の多忙さや疲労があって日本語力が低下します、私の職場は人員不足

であり、常にフルタイムで日本語勉強の時間がありません、試験合格後は系統的に日本語の勉強をしていない（3名）。

- ・日常生活の中で分からないことがあれば、自分で知ろうと調べ理解しています、家で一人で勉強、理解出来ない問題は、職場の友人に聞いています、時々日本の映画を見たり、日本語の小説を読んだりしています（2名）。

（フィリピン人）

- ・仕事が忙しいので日本語の勉強はしていない、今はとくにやっていない、時間がないのでできない、していない、全くしていない、特にしていないが、同僚がレポートの書き方を教えてくれるし、必要なときはボランティアの先生もいる（6名）。
- ・毎日1日2時間、平日または週末に1日2時間、時間があれば雑誌や本を読んだりテレビをみたりしている、1時間くらい、テレビを見るのは勉強になる、日本語の本を読むようにしている（4名）。
- ・グループスタディがあればやりたい。
- ・出産を終えたら、集中的に日本語を復習して、看護師として働ける準備をしたい。

7 日本や日本人について

1) 好き、気に入っていること

（インドネシア人）

- ・規律、マナー（2名）
- ・四季があること、自然（2名）。
正月や祝い事の時の日本文化、
交通機関と安全・安心（2名）。
- ・清潔（2名）。
- ・時間に正確
- ・善良、正直（2名）
- ・手伝うのが好き、何か質問するとすぐに答えを探し細かい処まではっきりさせてくれる。
- ・社交的
- ・観光地
- ・日本食

（フィリピン人）

- ・美しい国、春と秋が好き、四季（3名）
- ・清潔（2名）
- ・時間に正確（3名）
- ・仕事に責任感がある、仕事熱心、まじめに仕事をする、プロ意識が強い（4名）。
- ・人がやさしく親切、デリカシー、きちんとしている、マナー（3名）。
- ・日本食、食べ物もおいしいし、ヘルシー（2名）。
- ・すべてがシステム化されており、人もよく統率がとれている。
- ・日本食と日本人の仕事に対する態度。

- ・すべて

2) 嫌い、改善してほしいこと

(インドネシア人)

- ・冬は嫌い。
- ・外国の良い点をいまだに認めない。
- ・労働時間を超える。
- ・会話中、はっきり物事を言わない。聞かれてもイエス、ノーをはっきり言わないので話し相手を当惑させる。
- ・先輩がしばしば新人に対して権限を持ち支配するのは問題、とは言っても、良い先輩も沢山。しばしば彼らは陰で悪口をいう。
- ・いままで日本に関して嫌なことは感じたことはない。

(フィリピン人)

- ・冬は寒いので嫌い。
- ・休暇が短いので、家族と離れている外国人には不利、休暇は1か月欲しい(2名)。
- ・仕事ばかりに時間を使い、ストレスの解消を忘れてる。
- ・日本は物価が高い、税金も高い(2名)
- ・日本人は生真面目。
- ・日本は発展しすぎて、お互い人間関係が冷たくなったのでは。
- ・精神的価値より物質的価値に重きを置く。
- ・なかには冷たい人もいる。
- ・外国人をいじめるスタッフがいる。
- ・外国人に慣れていない。
- ・日本の座り方は足がつる。
- ・特になし

3) 異文化は介護の質に影響あるか

(インドネシア人)

- ・インドネシアでは家族が総て世話をするので、介護福祉士という職業はまだない。まさに日本の介護福祉士からおおいに学ぶことです。
- ・基本的には文化の違いに関してむつかしさはありません慣れてくれば問題はありません。
- ・豚を使った食事は問題。仕事ではしばしば言語上の問題。
- ・記載なし(2施設)

(フィリピン人)

- ・言葉の壁のみ、一番の問題は今でも言葉の壁、今のところ、すべて問題ないが、唯一、日本語で文章がうまく作れない、言葉と発音(4名)。
- ・挨拶の仕方にもいろんな種類があって、いまだに混乱してしまう。

- ・同僚との付き合いは問題ない。
- ・休暇が短い、私の上司は結構配慮してくれるが、2、3週間が限度。
- ・フィリピンでは12月16日から1月の1週目まではクリスマスを祝い、親戚や友達に会う日本にはクリスマス休暇はない。
- ・私はどんな文化の違いにも対応できるが、日本人がフィリピンの文化を理解できるかが問題。

8. その他、コメント

(インドネシア人)

- ・ どうして国家試験に合格した介護福祉士は、合格しなかった介護士と比べて給与の差がないのか。

(フィリピン人)

- ・日本での生活を楽しみ、出会いや機会を有効利用し、前向きに生きていきたい。
- ・日本政府が外国人介護福祉士に永住権を出してほしい。
- ・子供の教育を日本でしたいが、授業は日本語のみだし、インターナショナルスクールは高すぎる。
- ・政府が介護福祉士の給料を上げてほしい。介護に関して、相談できる場所があれば知りたい。介護の負担を減らすようなセミナーがあればいい。
- ・税金はどうすると返ってくるのかなど、日本の税金のことについてもっと知りたい。
- ・フィリピン人介護福祉士をどうやってもっと確保するのか、魅力的な方法を考えないと、すべてが崩壊する。
- ・このアンケートの使用目的を知りたいので、書いてほしい(2名)。
- ・特にない。
- ・記入なし(3名)。

Ⅲ 調査総評

初年度(第25回)の国家試験合格者には帰国者が多かったこと、国内で他の施設へ転職した者も多く、調査対象者を正確に把握できなかったことは残念である。来年度は他施設に移った外国人介護福祉士も調査対象にしたいと考えている。

外国人介護福祉士の多くは日本文化などに興味を持っており、現在日本で働く機会を得て楽しんでいることは嬉しいことである。また、日本人の同僚、会社は彼らを温かく支援している図が明らかになった。外国人介護福祉士は出身国では看護師であるが、介護福祉士の仕事に意義を感じ、笑顔やありがとうの言葉により利用者と心を通わせている。年長者を大切にする彼らの文化も影響しているのであろう。

一方困難なこととして言葉の壁(日本語能力の不足)によりコミュニケーションが十分にとれないことにいらだちを感じている。しかし、時間がないなどの理由で日本語の勉強をしていない人が多いようである。

将来の夢としては、看護師として働くことを希望している者(5名、23.8%)がいるが、当面は介護福祉士としての実力を養いたいようである。しかし、残念なことに介護福祉士として長く

日本に滞在したいとの意見はなかった。

日本について気に入っていることとして、四季があること、交通機関が安全、清潔、時間を守る、日本人の仕事熱心さ、食べ物のおいしさなどをあげている。一方嫌なこととして、イエス、ノーをはっきり言わないのでわかりにくい、外国人になれていない、外国人の良い点を認めない、外国人をいじめるスタッフがいる、休暇が短い、物価が高いなどをあげている。

回答内容はインドネシア人とフィリピン人に分けて示したが、両者の回答には大きな差はないようである。

本調査の結果、外国人介護福祉士の多くは大変な親日家であり、懸命に日本文化や日本社会に溶け込もうと頑張っている様子がよくわかった。このようにすばらしい外国人介護福祉士に定着していただき、日本の介護を日本人とともに担っていただきたいと心から思う。そのためには、我が国の社会も変わらねばならないのではなかろうか。例えば、長い休暇がとれることは外国人のみならず日本人にも歓迎されることであろう。また、外国人介護福祉士の出身国の文化に興味をもち、それを取り入れることも必要であると思う。つまり、我々は外国人を受け入れることにより新しい日本をつくる気概を持つべきではないだろうか。